

# 嵯峨・伏見に関する参考文献一覧

## 【嵯峨関係】

### 2010年代

- 善養寺淳一「清涼寺の釈迦像天竺帰還説について」(『国文学試論』24、2015年)
- 草野 隆「蓮生嵯峨中院山莊障子和歌から『百人一首』へ(上)『百人秀歌』私考(9)」(『星美学園短期大学研究論叢』46、2014年)
- 齊藤隆信「< 解題 > 佛教大学図書館蔵享保十年写三種伝戒書」(『仏教学部論集』98、2014年)
- 塩出貴美子「『なぐさみ草』の挿絵について:『徒然草』の絵画化」(『奈良大学大学院研究年報』19、2014年)
- 並松信久「近代京都の観光開発と会社設立:嵯峨野・嵐山を中心に」(『京都産業大学日本文化研究所紀要』19、2014年)
- 岡本真・須田牧子「天龍寺妙智院所蔵『明国諸土送行』」(『東京大学史料編纂所研究紀要』23、2013年)
- 川口靖夫「京都学派と嵯峨野高校(特集 京都学派とその周辺)」(『書論』39、2013年)
- 北村優季「書評と紹介 山田邦和著『日本中世の首都と王権都市:京都・嵯峨・福原』(平安京・京都研究叢書2)」(『日本歴史』782、2013年)
- 坂口太郎「鎌倉後期・建武政権期の天龍寺と大覚寺門跡:性円法親王を中心として」(『史学雑誌』122(4)、2013年)
- 高橋大樹「室町・戦国期二尊院の再興と「勸進」:法然廟・檀那・菩提所」(『仏教史学研究』55(2)、2013年)
- 中根麻貴「帝塚山大学図書館蔵『江戸道中記』『嵯峨名所』『奈良大乘院院家南院家資料』について(三)」(『奈良学研究』15、2013年)
- 野田泰三・肥留川嘉子・朝比奈 英夫「角倉一族の歴史と文化的活動について」(『京都光華女子大学研究紀要』51、2013年)
- 森上修・本多潤子「天理図書館蔵嵯峨本『徒然草』(第一種本)三格活字(一〇五九駒)の印出字調査」(『ビブリア』140、2013年)
- 小林善仁「近代初頭における天龍寺境内地の景観とその変化」(『歴史学部論集』2、佛教大学、2012年)
- 中西 亨「日本の塔百選(8)清涼寺(嵯峨釈迦堂)多宝塔:京都府指定文化財」(『史迹と美術』82-8、2012年)
- 町田 香「南禅寺南禅院と天龍寺の庭園:離宮から禅の庭へ」(『禅文化』224、2012年)
- 三木崇臣「嵯峨本『伊勢物語』と覆刻整版本について:刊行・受容・評価」(『京都橘大学大学院研究論集・文学研究科』10、2012年)
- 村上弘子「近世における真言宗寺院の諸相:智積院『日鑑』にみえる」(『智山學報』61、2012年)
- 安原真琴「十七世紀前後のメディア革命に関する一考察:『扇の草子』・『月次風俗図屏風』・要法寺版嵯峨本をめぐって(特集 十六世紀の文学)」(『文学』13-5、岩波書店、2012年)
- 山田邦和『日本中世の首都と王権都市:京都・嵯峨・福原』文理閣、2012年
- 山家浩樹「書評と紹介 原田正俊編『天龍寺文書の研究』」(『日本歴史』773、2012年)
- 鈴木里佳・三浦彩子「『嵯峨流庭古法秘伝之書』の異本に関する研究」(『日本建築学会計画系論文集』76(670)、2011年)
- 鈴木広光「嵯峨本『伊勢物語』慶長十三年刊第二種本の活字と植字組版について」(『汲古』59、2011年)
- 原田正俊編『天龍寺文書の研究』思文閣出版、2011年
- 海老沼真治・平山優「戦国期甲州金に関する一史料--京都天龍寺塔頭臨川寺文書の紹介」(『山梨県立博物館研究紀要』4、2010年)
- 小川 功「嵯峨・嵐山の観光先駆者-風間八左衛門と小林吉明らによる嵐山温泉・嵯峨遊園両社を中心に-」(『跡見学園女子大学マネジメント学部紀要』10、2010年)
- 河野良子「『嵯峨日記』と西行の「たはぶれ歌」の関連性」(『国文目白』49、2010年)
- 北澤菜月「京都清涼寺所蔵阿弥陀淨土図について」(『鹿園雑集』12、2010年)
- 小林善仁「山城国葛野郡天龍寺の境内地処分と関係資料」(『鷹陵史学』36、2010年)
- 菅井良治『嵯峨の御陵と古墳群』さらんネット、2010年
- 瀧 朝子「仏像とともに海を渡った鏡--清涼寺釈迦如来像」(『アジア遊学』132、2010年)

## 第2部 京都班の報告

林 進「嵯峨本『伊勢物語』(慶長十三年初刊)の誕生(下) その挿絵とキリシタン画家・狩野一雲」(『日本古書通信』75-10、2010年)

林 進「嵯峨本『伊勢物語』(慶長十三年初刊)の誕生(中) 出版の意図と挿絵の特徴」(『日本古書通信』75-9、2010年)

林 進「嵯峨本『伊勢物語』(慶長十三年初刊)の誕生(上) 素庵書体と嵯峨本活字書体」(『日本古書通信』75-8、2010年)

藤田真一「〈閑〉と連衆 -- 『嵯峨日記』の含意」(『大阪俳文学研究会会報』44、2010年)

山口敬太・出村嘉史・川崎雅史・樋口忠彦「近世の紀行文にみる嵯峨野における風景の重層性に関する研究」(『土木学会論文集D』66(1)、2010年)

### 2000年代

木村大輔「明治・大正期の嵯峨における土地区画変化の歴史地理学的考察：分筆・合筆行為を中心に」(『佛敎大学大学院紀要・文学研究科篇』37、2009年)

大森恵子「中世における日中貿易守護と琵琶法師守護に関する弁財天信仰：特に、大覚寺弁財天堂に寄せられた信仰と西園寺家の川の神信仰を中心に」(『宗教民族研究』19、2009年)

奥 健夫「新指定重要文化財紹介 京都・清涼寺木造毘沙門天坐像」(『仏教芸術』305、2009年)

奥 健夫「清涼寺釈迦如来像」(『日本の美術』513、2009年)

小木曾千代子「『嵯峨遮那院』について -- 恵鎮(円観)上人年譜稿訂正」(『汲古』56、2009年)

佐藤有希子「京都・清涼寺毘沙門天立像の位置 -- その造形と製作背景について」(『美術史』58-2、2009年)

鈴木里佳・三浦彩子「『嵯峨流庭古法秘伝之書』の写本の伝承経緯について(日本建築史：生産(2)、建築歴史・意匠)」(『学術講演梗概集・F-2、建築歴史・意匠』、2009年)

土谷真紀「初期狩野派絵巻の研究 -- 「二尊院縁起絵巻」を中心に」(『鹿島美術財団年報』27、2009年)

仲尾 宏「天龍寺と室町時代の日朝友好 -- もうひとつの朝鮮通信使の時代[含 質疑応答]」(『講座・人権ゆかりの地をたずねて』2009年度、2009年)

三浦彩子「日本庭園史と禅浄一致思想」(『名城大学総合研究所紀要』14、2009年)

山家浩樹「研究余録 嵯峨南芳院とその文書」(『日本歴史』739、2009年)

有田和臣「川端康成「古都」と〈トボス〉としての京都：千重子"再生"の主題と「四神相応」への夢(京都における日本近代文学の生成と展開)」(『佛敎大学総合研究所紀要』、2008年) 内田啓一「法金剛院本「清涼寺大念仏縁起絵巻」について(村重寧先生星山晋也先生古稀記念論文編集委員会編『日本美術史の杜：村重寧先生星山晋也先生古稀記念論文集』竹林舎、2008年)

海原 亮「文化七年清涼寺出開帳の諸経費」(『住友史料館報』39、2008年)

川嶋將生「大覚寺蔵の公家書状 -- 近世初期を中心に」(『日本の美術』501、2008年)

河野有貴子「飛鳥井雅有『嵯峨の通ひ』の方法 -- 事実の改変と成立時期について」(『広島女学院大学大学院言語文化論叢』11、2008年)

小秋元段「要法寺版をめぐる覚書」(『藝文研究』95、2008年)

近藤 謙「清涼寺兜跋毘沙門天立像の文様と寺院調査における新出資料について」(『佛敎大学アジア宗教文化情報研究所研究紀要』4、2008年)

外村 彰「岡本かの子の文学と〈京都〉：旅の所産と古典受容から(京都における日本近代文学の生成と展開)」(『佛敎大学総合研究所紀要』、2008年)

竹内千代子「井上重厚と落柿舎再興」(『サビエンチア：英知大学論叢』42、2008年)

渡邊秀一・木村大輔・小林善仁・杉山純平・藤井暁「景観復原資料としての旧公図・土地台帳の利用 / 明治・大正期の嵯峨・嵐山における土地区分と土地利用を通して」(『鷹陵史学』34、2008年)

渡邊秀一「名所案内記からみた近代嵯峨・嵐山の観光業」(『鷹陵史学』34、2008年)

河野有貴子「飛鳥井雅有と『源氏物語』 -- 『嵯峨の通ひ』と『仏道の記』を中心に」(『広島女学院大学国語国文学誌』37、2007年)

木戸久二子「嵯峨本伊勢物語の挿絵をめぐる(1) 第一段~第五段」(『三重大学日本語学文学』18、2007年)

京都嵯峨芸術大学編集『後宇多法皇御入山700年記念大覚寺の名宝』京都嵯峨芸術大学、2007年

- 京都市埋蔵文化財研究所編『史跡大覚寺御所跡』京都市埋蔵文化財研究所、2007年
- 草野 隆「蓮生嵯峨中院山莊障子の中の上東門院の女房歌人たち--『百人秀歌』私考(4)」(『星美学園短期大学研究論叢』39、2007年)
- 杉志努布「湯木美術館蔵「嵯峨嵐峡蒔絵中次」について」(『美術史論集』7、2007年)
- 大本山大覚寺、大覚寺学園、京都嵯峨芸術大学編集『大覚寺の名宝 後宇多法皇御入山700年記念』2007年
- 谷山勇太「近世の嵐山と橋:天龍寺の寺務日誌を素材として」(『社会科学』79、同志社大学、2007年)
- 谷山勇太「近世の嵐山と日切茶店:天龍寺の寺務日誌を素材として」(『社会科学』78、同志社大学、2007年)
- 新名一仁「大覚寺義昭事件の政治的影響--島津家文書「年欠卯月一四日付大内持世書状」の意義」(『鹿兒島地域史研究』4、2007年)
- 林 進「天理図書館所蔵の嵯峨本『三十六人歌合』--その依拠本と本文版下の筆者について」(『ビブリア 天理図書館報』127、2007年)
- 原田正俊研究代表『天龍寺・相国寺を中心とした五山派禪宗寺院文書の研究』(科学研究費補助金(基盤研究C)研究成果報告書、平成16年度-平成18年度)2007年
- 森上 修「嵯峨本『伊勢物語』諸刊本の連彫木活字について」(『ビブリア 天理図書館報』127、2007年)
- 森上 修「嵯峨本『伊勢物語』の活字調査」(『日本古書通信』72(3)、2007年)
- 山田 徹「天竜寺領の形成」(『ヒストリア』207、2007年)
- 渡邊秀一・木村大輔・小林善仁・藤井暁「嵯峨諸寺門前地の近代的変容に関する予備的考察」(『佛教大学アジア宗教文化情報研究所研究紀要』3、2007年)
- 川崎安子・岡友美子・赤木一夫「研究大会 嵯峨本『伊勢物語』の書誌的調査(私立大学図書館協会第66回(2005年度)総会記録)」(『私立大学図書館協会会報』125、2006年)
- 私立大学図書館協会西地区部会阪神地区協議会書誌学研究会編『嵯峨本『伊勢物語』(第一種本)の考察と検証』2006年
- 鈴木広光「嵯峨本『伊勢物語』の活字と組版」(『近世文芸』84、2006年)
- 高木浩明「嵯峨本再見--嵯峨本『撰集抄』についての書誌的報告」(『汲古』49、2006年)
- 出村嘉史・荒川愛・樋口忠彦「天龍寺における十境と景域に関する研究」(『都市計画.別冊,都市計画論文集』41(3)、2006年)
- 中前正志「八幡本地衣上影現説話展開の諸相:『江記』新出逸文と嵯峨法輪寺縁起から」(『女子大國文』139、2006年)
- 名古屋市博物館編『泉涌寺靈宝拝見図・嵯峨靈仏開帳志』2006年
- 西山美香「天龍寺供養の史的意義をめぐって」(『禅文化研究所紀要』28、2006年)
- 蓮池美緒「像内納入品からみた清涼寺釈迦如来像について」(『文化財学雑誌』2、2006年)
- 山口敬太・水谷肇・出村嘉史・川崎雅史・樋口忠彦「昭和初期の嵯峨における風景の価値評価に関する研究」(『景観・デザイン研究論文集』1、2006年)
- 海原 亮「嵯峨清涼寺釈尊の江戸出開帳と住友」(『住友史料館報』36、2005年)
- 川名 登「角倉了以の大堰川開削・通船事業」(『交通史研究』57、2005年)
- 小島裕子「五台山文殊を謡う歌:『梁塵秘抄』より、嵯峨清涼寺齋然の五尊文殊請来説を問う」(真鍋俊照編著『仏教美術と歴史文化』法蔵館、2005年)
- 小島裕子「五台山文殊を謡う歌:『梁塵秘抄』より、嵯峨清涼寺齋然の五尊文殊請来説を問う」(真鍋俊照編著『仏教美術と歴史文化:真鍋俊照博士還暦記念論集』法蔵館、2005年)
- 高木浩明「嵯峨本『伊勢物語』の書誌的考察(下)」(『ビブリア 天理図書館報』123、2005年)
- 中川真弓「嵯峨念仏関係願文考--『菅芥集』所収願文をめぐって」(『中世文学』50、2005年)
- 三田村雅子「<記憶>の中の源氏物語(12)『嵯峨の通ひ』の源氏物語」(『新潮』102(6)、2005年)
- 森上 修「嵯峨本『伊勢物語』(慶長13年版初版 館蔵)の漢字形活字について」(『香散見草:中央図書館報』33、2005年)
- 矢ヶ崎善太郎「住友茶臼山本邸から移築された清涼寺澄泉閣について:八木甚兵衛の和風建築に関する研究(建築史・建築意匠・建築論)」(『日本建築学会近畿支部研究報告集.計画系』45、2005年)

## 第2部 京都班の報告

- 大村拓生「中世嵯峨の都市的發展と大堰川交通」(『都市文化研究』3、2004年)
- 加藤一寧「智者の遠慮に任せて--天龍寺船派遣決定についての一試論」(『禅文化研究所紀要』27、2004年)
- 小秋元段「嵯峨本『史記』の書誌的考察」(『法政大学文学部紀要』49、2004年)
- 寺田瑞木「江戸初期の二十四孝図--嵯峨本『二十四孝』と渋川版『御伽文庫』「二十四孝」における図像の成立関係(特集 武者絵)」(『浮世絵芸術』147、2004年)
- 早田一郎「近世の文化と活字本--きりしたん版・伏見版・嵯峨本…」展」(『ビブリア 天理図書館報』122、2004年)
- 高木浩明「嵯峨本『伊勢物語』の書誌的考察(上)」(『ビブリア 天理図書館報』122、2004年)
- 天理大学附属天理図書館編『近世の文化と活字本:きりしたん版・伏見版・嵯峨本…』天理ギャラリー、2004年
- 中川順子『和漢朗詠集』伝後京極良経筆嵯峨切「遊女」について--新出資料紹介」(『神女大國文』15、2004年)
- 細川武稔「禅宗の祈祷と室町幕府:三つの祈祷システム」(『史学雑誌』113(12)、2004年)
- 三木サニア「辻邦生『嵯峨野明月記』論(二):嵯峨本刊行とその後の歩み」(『久留米信愛女学院短期大学研究紀要』27、2004年)
- 立命館大学考古学研究会『朝原山・長刀坂古墳群:京都市嵯峨野群集墳の分布・測量調査報告』2004年
- 工藤泰子「嵯峨・嵐山における観光地形成」(『大阪学院大学通信』34(4)、2003年)
- 天理大学附属天理図書館編『近世の文化と活字本:きりしたん版・伏見版・嵯峨本……:開館73周年記念展』天理大学出版部、2003年
- 仲井徳「嵯峨本の出版と日本文学史上の意義--『伊勢物語』書誌調査を中心に」(『短期大学図書館研究』23、2003年)
- 永井邦男・福田敏朗「慶長三年建立天龍寺仏殿の古図(建築史・建築意匠・建築論)」(『日本建築学会近畿支部研究報告集・計画系』43、2003年)
- 野村俊一・小栗恒・田路貴浩「天龍寺十境」の成立とその特質:夢窓疎石の庭園観(6)」(『学術講演梗概集・F-2、建築歴史・意匠』2003年)
- 野村俊一・小栗恒・田路貴浩「天龍寺十境」の相互関係について:夢窓疎石の庭園観(4)(建築史・建築意匠・建築論)」(『日本建築学会近畿支部研究報告集・計画系』43、2003年)
- 野村俊一・小栗恒・田路貴浩「天龍寺十境」の成立について:夢窓疎石の庭園観(2)(建築歴史・意匠)」(『日本建築学会関東支部研究報告集II』73、2003年)
- 高岸 輝「清涼寺本「融通念仏縁起」と足利義満七回忌追善」(『仏教芸術』264、2002年)
- 高橋一樹「資料紹介 南北朝初期の大覚寺宮関係文書二通」(『国立歴史民俗博物館研究報告』97、2002年)
- 仲井 徳「嵯峨本『史記』など古活字版諸種について--京都大学附属図書館図書館訪書の記--」(『静脩』38(4)、2002年)
- 嶋本尚志「奮然の入宋と清涼寺建立について:奮然をめぐる人的ネットワーク」(『博物館学年報』33、2001年)
- 内田啓一「宋請来版画と密教図像--応現観音図と清涼寺釈迦像納入版画を中心に」(『仏教芸術』254、2001年)
- 大鳥居総夫「〔史迹美術同研究会〕第八四二回例会 嵯峨の大覚寺と清涼寺」(『史迹と美術』71(9)、2001年)
- 川崎 博「<研究資料> 嵯峨本『伊勢物語』の挿絵作者について」(『國華』106(1)、2001年)
- 長岡龍作「清涼寺釋迦如来像と北宋の社會」(『國華』106-12、2001年)
- 鍋本由徳「慶長期における駿府政權の対大名意識--嵯峨天龍寺塔頭陽春院一件を素材にして」(『戦国史研究』42、2001年)
- 林 進「古筆つれづれ草 角倉素庵の書と嵯峨本」(『水莖』29、2001年)
- 三木紀人「清涼寺釈迦如来の噂など」(『駒沢大学仏教文学研究』4、2001年)
- 山田昭全「宝物集と法然伝--嵯峨清涼寺釈迦像将来譚は宝物集からの引用」(『豊山学報』43、2000年)
- 1990年代**
- 大田壮一郎「大覚寺門跡と室町幕府:南北朝~室町期を中心に」(『日本史研究』443、1999年)
- 加藤正俊「一休宗純の幼年期--嵯峨地藏院のこと」(『禅文化』173、1999年)
- 川崎 博「研究資料 嵯峨本『二十四孝』の挿絵作者について(下)」(『國華』104(7)、1999年)
- 川本重雄「研究資料 大覚寺宸殿について」(『國華』105(1)、1999年)
- 北條勝貴「山背嵯峨野の基層信仰と広隆寺仏教の発生--古代的心性における治水と樹木伐採」(『日本宗教文化史研究』3(1)、1999年)

- 松井健児「酒宴と権勢 - 光源氏の嵯峨遊行 (特集 遊びと空間) - (空間を渉る)」(『源氏研究』4、1999年)
- 川崎 博「研究資料 嵯峨本『二十四孝』の挿絵作者について (上)」(『国華』104 (5)、1998年)
- 嵯峨教育振興会『嵯峨誌:平成版』1998年
- 佐藤智広「二条中将入道について - 飛鳥井雅有『嵯峨の通ひ』注釈小考 (特集 中世)」(『解釈』44 (8)、1998年)
- 奥 健夫「清涼寺・寂光院の地藏菩薩像と「五境の良薬」 - 像内納入品論のために」(『仏教芸術』234、1997年)
- 舊嵯峨御所大覚寺『史跡大覚寺御所跡発掘調査報告:大沢池北岸域復原整備事業に伴う調査』1997年
- 京都市埋蔵文化財研究所編『京都嵯峨野の遺跡:広域立会調査による遺跡調査報告』、1997年
- 小林史・加藤邦男・熊沢栄二「9025 建築・場所論に関する基礎的研究 (IX):歌枕から見た平安時代の嵯峨野の場所的構造 (建築史・建築意匠・建築論)」(『日本建築学会近畿支部研究報告集・計画系』37、1997年)
- 大覚寺・大沢池整備委員会『史跡大覚寺御所跡発掘調査報告:大沢池北岸域復原整備事業に伴う調査』舊嵯峨御所大覚寺、1997年
- 原田正俊「中世の嵯峨と天龍寺」(浄土真宗教学研究所、本願寺史料研究所編『講座蓮如』第4巻、平凡社、1997年)
- 船橋晴雄「日本経済史紀行 洛西・嵯峨野角倉家の共生哲学」(『This is 読売』8 (6)、1997年)
- 奥 健夫「清涼寺釈迦如来像の受容について」(『鹿島美術財団年報』13別冊、1996年)
- 国文学研究資料館史料館編『山城国諸家文書目録』1996年
- 村上 学「丹緑絵本の創出 - 奈良絵本・嵯峨本を受けて (特集:視覚の古典史 - かたち・色・ことば) - (絵草子の群れ)」(『国文学 解釈と教材の研究』41 (4)、1996年)
- 森上 修「【造本美と嵯峨本の世界】館蔵<光悦謡本>『矢卓鴨』のことども (料紙・雲母模様・活字書体・版組・印刷・装訂など)」(『香散見草:中央図書館報』25、1996年)
- 湯浅佳子「『嵯峨釈迦如来開帳』について」(『叢』18、1996年)
- 大覚寺聖教文書研究会「大覚寺聖教函伝来文書」(『古文書研究』41・42、1995年)
- 大覚寺聖教文書研究会「大覚寺聖教・文書」(『古文書研究』40、1995年)
- 和田維四郎著『嵯峨本考:江戸物語錦繪の改印の考證:ほか』近世文芸研究叢書、1995年
- 市川通雄「『幻住庵記』と『嵯峨日記』をめぐって」(『文学研究』80、1994年)
- 渡部伸一「嵯峨清涼寺釈迦像の京都入洛について」(『大正大学大学院研究論集』18、1994年)
- 宇野日出生「嵯峨の地侍福田氏」(『京都市史編さん通信』241、1993年)
- 久下裕利「嵯峨本伊勢物語の挿絵を読む」(『学苑』645、1993年)
- 森上 修「初期古活字版の印行者について - 嵯峨の角倉 (吉田) 素庵をめぐって」(『ビブリア』100、1993年)
- 八木聖弥「室町初期の怨霊思想 - 天竜寺創建をめぐって」(『文化史学』49、1993年)
- 赤尾栄慶「後宇多天皇宸翰の書跡 - 聖教書写と空海思慕 (京都国立博物館特別展覧会「嵯峨天皇 1150年御忌 大覚寺の名宝」<特集>)」(『古美術』102、1992年)
- 伊東史朗「明円作の5大明王像 (京都国立博物館特別展覧会「嵯峨天皇 1150年御忌 大覚寺の名宝」<特集>)」(『古美術』102、1992年)
- 伊東史朗・下坂守・狩野博幸「京都国立博物館特別展覧会 - 嵯峨天皇 1150年御忌 - 嵯峨御所 大覚寺の名宝」(『月間文化財』342、1992年)
- 狩野博幸「大覚寺の障壁画 (京都国立博物館特別展覧会「嵯峨天皇 1150年御忌 大覚寺の名宝」<特集>)」(『古美術』102、1992年)
- 京都国立博物館編『嵯峨御所大覚寺の名宝』日本経済新聞社、1992年
- 嵯峨美術短期大学総合美術研究所編集『大覚寺聖教目録』大覚寺:大覚寺学園嵯峨美術短期大学、1992年
- 菅基久子「護国と清浄:天龍寺創建と夢窓疎石」(源了圓、玉懸博之共編『国家と宗教:日本思想史論集』思文閣出版、1992年)
- 若杉準治「大覚寺の肖像画 (京都国立博物館特別展覧会「嵯峨天皇 1150年御忌 大覚寺の名宝」<特集>)」(『古美術』102、1992年)
- 和田維四郎『嵯峨本考』名著普及会、1992年

## 第2部 京都班の報告

- 鬼木 格「知られざる嵯峨と芭蕉」(『日本美術工芸』631、1991年)  
京都の史跡を訪ねる会編『嵐山あたりの史跡と伝説と古典文学を訪ねて』室町書房、1991年  
上島 有「天龍寺の朱印状と公帖」(『摂大学術』B, 人文科学・社会科学編』9、1991年)  
大橋乗保「狩野一溪考 - 清涼寺の花鳥図屏風をめぐって」(『日本美術工芸』627、1990年)  
永井邦男・福田敏朗「天龍寺所蔵の建築関係文書と大工工藤氏について：建築史・建築意匠・建築論：近畿支部」(『建築雑誌・建築年報』1990年)  
渡辺静子「嵯峨のかよひぢ」の研究 - 私注と現代語訳」(『大東文化大学紀要 人文科学』28、1990年)

### 1980年代

- 吉村稔子「清涼寺蔵迎接曼陀羅と上品上生往生願」(『美術史』38(2)、1989年)  
永井邦男・福田敏朗「天龍寺所蔵の建築関係文書と大工工藤氏について(建築史・建築意匠・建築論)」(『日本建築学会近畿支部研究報告集・計画系』29、1989年)  
村岡 空『嵯峨大覚寺：人と歴史』朱鷺書房、1988年  
森 猛「豊後国直入郷と領家清涼寺」(『史学論叢』18、1988年)  
樋口秀雄「絵入本の研究文献-1- 嵯峨本・仮名草子」(『日本古書通信』52(10)、1987年)  
市川通雄「嵯峨日記」にみられるもの」(『文学研究』64、1986年)  
岩田茂樹「清涼寺蔵・証空自筆消息の再検討 - 鎌倉時代来迎図研究のための前提的考察」(『文化史学』42、1986年)  
十束順子「太平記巻二十五「天龍寺建立之事」考(二)：僉議の文・奏状・牒状等について」(『青山語文』16、1986年)  
熊本達哉「近世における清涼寺の伽藍に関する考察：本堂を中心にして」(『学術講演梗概集・F, 都市計画, 建築経済・住宅問題, 建築史・建築意匠』1986、1986年)  
細川涼一「導御・嵯峨清涼寺融通大念仏会・「百万」」(『文学』54(3)、1986年)  
宮崎法子「宋代仏画史に於ける清涼寺十六羅漢像の位置」(『東方學報・京都』58、1986年)  
上野洋三「嵯峨日記」試論」(『女子大文学 国文編』36、1985年)  
山下一海「嵯峨日記」- 落柿舎における芭蕉の日々(魅せられた日記文学 - 古典から近代まで <特集> - (日記文学の諸相)」(『国文学解釈と鑑賞』50(8)、1985年)  
斎藤 彰「鳥丸光広筆徒然草の性格 - 嵯峨本徒然草と御所本徒然草の近似性」(『学苑』539、1984年)  
新撰京都叢書刊行会編著『新撰京都叢書』第一巻、臨川書店、1984年  
浜口博幸「飛鳥井雅有日記」略注-2- 嵯峨のかよひ路」(『甲南大学紀要 文学編』56、1984年)  
久保田清「嵯峨日記」に関する一考察」(『専修国文』33、1983年)  
京都国立博物館編『釈迦信仰と清涼寺：特別展覧会』京都新聞社、1982年  
西村真砂子「嵯峨日記考-2- その位置について(日本文学科開設四十周年記念特集)」(『日本文藝研究』34(3)、1982年)  
植木行宣「嵯峨大念仏狂言」(『民俗芸能』61、1981年)  
大内由紀夫「嵯峨問答(付書誌)」(『国文学』関西大学国文学会、1981年)  
片桐洋一編『伊勢物語：嵯峨本第一種』和泉書院、1981年  
荒木計子「入宋僧〔チョウ〕然と清涼寺建立の諸問題 - 上 -」(『学苑』491、1980年)  
荒木計子「入宋僧〔チョウ〕然と清涼寺建立の諸問題 - 下 - 帰国後の〔チョウ〕然と義蔵の行動」(『学苑』492、1980年)  
京都府教育委員会編『天龍寺古文書目録』1980年  
渡辺三男「嵯峨山院・嵯峨野考(柴生田稔先生退任記念)」(『駒澤國文』17、1980年)
- ### 1970年代
- 富山 奏「嵯峨日記」の位置」(『連歌俳諧研究』57、1979年)  
澤田天瑞「庭園の背後思想と構成に関する研究(XIV)：夢想国師と天龍寺庭園の構成について」(『造園雑誌』43(2)、1979年)  
浜田 隆「清涼寺蔵「迎接曼荼羅図」考」(『國華』1024、1979年)  
藤倉レイ「角倉氏の嵯峨川支配について」(『地方史研究』29(5)、1979年)  
青木 晃「翻刻解説」、内藤悦永「京都・清涼寺蔵「滝口縁起」」(『国文学』55、1978年)

- 金田章裕「平安初期における嵯峨野の開発と条里プラン」(『追手門学院大学文学部紀要』12、1978年)
- 天龍寺編『天龍寺：嵯峨野に刻まれた五山巨刹の盛衰』東洋文化社、1978年
- 西村礼津子「嵯峨本--成立とその周辺について-下-」(『日本美術工芸』474、1978年)
- 西村礼津子「嵯峨本--成立とその周辺について-中-」(『日本美術工芸』473、1978年)
- 西村礼津子「嵯峨本--成立とその周辺について-上-」(『日本美術工芸』472、1978年)
- 日本古典文学会編『光悦謡本』ほるぶ出版、1978年
- 宮川英二・宇杉和夫・鈴木善男・竹中伸一「日本庭園の空間構造に関する研究：その2 十境にみる庭園の内界と外界との関係(天龍寺と西芳寺)：建築歴史・意匠」(『学術講演梗概集・計画系』53、1978年)
- 吉田幸一編『撰集鈔：嵯峨本』古典文庫、1977年
- 泉 澄一「天龍寺第二百二十二世・湛堂令椿和尚について--対馬以訶庵輪番時代の行実」(『日本歴史』339、1976年)
- 岡村健三著『芭蕉翁嵯峨日記』落柿舎保存会、1976年
- 笠間愛子「『嵯峨日記』と芭蕉」(『文学研究』44、1976年)
- 笠間愛子「『嵯峨日記』断想」(『文学研究』43、1976年)
- 佐野精一「嵯峨「油掛地蔵」の原像」(『史迹と美術』46(9)、1976年)
- 鈴木一雄「嵯峨と宇治--二つの隠棲地(京都--王朝の文学空間<特集>)--(京都=風景の様々)」(『国文学 解釈と教材の研究』21(7)、1976年)
- 中村直勝「寺社の出開帳--嵯峨釈迦堂の場合(遺稿)-下-」(『日本美術工芸』452、1976年)
- 中村直勝「寺社の出開帳--嵯峨釈迦堂の場合(遺稿)-上-」(『日本美術工芸』451、1976年)
- 横田信義「嵯峨本出版とその周辺」(『東北福祉大学論叢』15、1976年)
- 泉 澄一「天龍寺第二百九世・中山玄中和尚について」(『史泉』50、1975年)
- 水谷昭夫「辻邦生における歴史と想像力--「嵯峨野明月記」覚書(歴史小説の現在<特集>)」(『国文学 解釈と教材の研究』20(3)、1975年)
- 三田全信「嵯峨念仏房と清涼寺」(『鷹陵史学』1、1975年)
- 石原 明「清涼寺釈迦立像納入の内臓模型-続-」(『東京国立博物館研究誌』293、1975年)
- 堀永休編『嵯峨誌』臨川書店、1974年
- 香川県文化会館編『大覚寺障壁画と嵯峨流華展』1974年
- 泉 澄一「天龍寺塔頭・宝徳院について--その建立と再興」(『史泉』47、1973年)
- 入江隆則「芭蕉俳諧の空間と回生--「嵯峨日記」をめぐる(芭蕉--逆説の美学(特集))--(詩--その形式と方法)」(『国文学 解釈と教材の研究』18(6)、1973年)
- 斎木一馬「清涼寺所蔵熊谷入道宛証空自筆書状について」(『仏教史研究』7、1973年)
- 日本経済新聞大阪本社文化事業部編『旧嵯峨御所大覚寺什宝集』大覚寺、1973年
- 『旧嵯峨御所』大覚寺、1973年
- 表 章『光悦謡本』日本古典文学刊行会、1972年
- 京都嵯峨材木史編纂委員会編集『京都嵯峨材木史』嵯峨材木、1972年
- 日本経済新聞大阪本社文化事業部編『大覚寺障壁画展：旧嵯峨御所』1972年
- 京都大学考古学研究会編『嵯峨野の古墳時代：御堂ヶ池群集墳発掘調査報告』京大考古学研究会出版事務局、1971年
- 切畑健「清涼寺融通大念仏縁起絵巻」(『國華』941、1971年)
- 篠田一士「シラとカリブディスのあいだで--辻邦生「嵯峨野明月記」」(『文芸』10(13)、1971年)
- 土屋敦夫「嵯峨野における文学的風土の定着とその保存に関して(建築史・意匠[第5室])」(『学術研究発表会梗概集・建築計画・都市計画・建築歴史・建築意匠・建築経済・住宅問題』11、1971年)
- 藤田叔民「明治期の京都木材市場--特に嵯峨・千本市場について」(同志社大学人文科学研究所編『京都社会史研究』法律文化社、1971年)
- 江島伊兵衛、表章編『図説光悦謡本』有秀堂、1970年
- 川勝政太郎「嵯峨の野の宮」(『史迹と美術』40(6)、1970年)

## 第2部 京都班の報告

### 1960年代

- 岡村健三「嵯峨日記」を読む(『文学研究』29、1969年)
- 初崎正純「嵯峨大覚寺勅封般若心経の研究」(『密教学研究』1、1969年)
- 広田二郎「嵯峨日記」の気象の記述(『連歌俳諧研究』37、1969年)
- 笠井 清「嵯峨日記」抄-承前-(『甲南大学文学会論集』39、1968年)
- 三田全信「嵯峨二尊院の法然上人の納骨塔について」(『人文学論集』2、1968年)
- 笠井 清「嵯峨日記」抄(『甲南大学文学会論集』35、1967年)
- 黒田昇竜、初崎正純編『嵯峨御所大覚寺門跡聖教目録』嵯峨御所大覚寺門跡、1967年
- 丸山季夫「瑚〔レン〕尼「嵯峨紀行」(翻刻・解説)」(『文学研究』23、1966年)
- 由水常雄「清涼寺・釈迦如来立像の胎内納入物のガラスについて」(『美術史研究』4、1966年)
- 中島斌雄「嵯峨日記」の芭蕉:その起臥・心象・発想について(『国文目白』4、1965年)
- 白川一郎「嵯峨野の小径」--日本の秘宝「三十六人家集」-10-(『芸術新潮』14(10)、1963年)
- 多田裕計「嵯峨と膳所の記--紀行俳文」(『俳句研究』18(11)、1961年)
- 藪田嘉一郎「北嵯峨と海事氏族-下の下-」(『史迹と美術』30(5)、1960年)

### 1950年代

- 塚本俊孝『嵯峨清涼寺に於ける浄土宗鎮西流の傳入とその展開:清涼寺史近世篇』佛教文化研究所、1959年
- 藪田嘉一郎「北嵯峨と海事氏族-下の中-」(『史迹と美術』29(7)、1959年)
- 藪田嘉一郎「北嵯峨と海事氏族-下の上-」(『史迹と美術』29(5)、1959年)
- 藪田嘉一郎「北嵯峨と海事氏族-中-」(『史迹と美術』29(4)、1959年)
- 藪田嘉一郎「北嵯峨と海事氏族-上-」(『史迹と美術』29(3)、1959年)
- 奥田修三「幕末の株仲間--京都嵯峨・梅津・桂三ヶ所材木仲間について」(『立命館大学経済』7(2)、1958年)
- 塚本俊秀「嵯峨釈迦仏の江戸出開帳について」(『仏教文化研究』6・7、1958年)
- 岩田九郎「幻住庵記と嵯峨日記」(『国文学解釈と教材の研究』2(4)、1957年)
- 藪田嘉一郎「天竜寺の絵門について」(『史迹と美術』27(8)、1957年)
- 蘭田香融「嵯峨虚空蔵略縁起」(『關西大學文學論集』5(1・2)、1956年)
- 塚本善隆「嵯峨清涼寺を中心とした仏教の動向」(『印度学仏教学研究』4(2)、1956年)
- 塚本善隆「嵯峨清涼寺史・平安朝篇」(『仏教文化研究』5、1955年)
- 塚本俊秀「嵯峨清涼寺に於ける浄土宗鎮西流の伝入とその展開」(『仏教文化研究』5、1955年)
- 塚本善隆「嵯峨清涼寺釈迦像封蔵品の宗教史的意義」(『印度学仏教学研究』3(1)、1954年)
- 塚本善隆「清涼寺釈迦像封蔵の東大寺〔チョウ〕然の手印立誓書」(『仏教文化研究』4、1954年)
- 川勝政太郎「清涼寺銅鐘と銘文」(『史迹と美術』24(1)、1954年)
- 中村直勝「従一位富子と堺の衆--清涼寺の鐘銘」(『史迹と美術』24(1)、1954年)
- 京都史蹟會編『上嵯峨と北嵯峨』綜芸舎、1953年
- 竹村俊則「北嵯峨の史蹟と伝説-下-」(『史迹と美術』22(6)、1952年)
- 竹村俊則「北嵯峨の史蹟と伝説-中-」(『史迹と美術』22(5)、1952年)
- 竹村俊則「北嵯峨の史蹟と伝説-上-」(『史迹と美術』22(4)、1952年)
- 岡田孝男「嵯峨の落柿舎-草庵をめぐる(2)-」(『新住宅』53、1951年)
- 中村直勝『後水尾天皇御紀』舊嵯峨御所大本山大覚寺、1951年

### 1940年代

- 石田吉貞「定家の嵯峨山荘」(『国語と国文学』26(2)、1949年)

### 1930年代以前

- 森蘊「鎌倉時代宮苑に関する研究」(『造園雑誌』6(3)、1939年)
- 山田無文『天龍寺小史』天龍寺宗務本院、1937年
- 寺尾宏二『後醍醐天皇と天竜寺』後醍醐天皇多宝殿再建奉賛会、1934年

樋口 功『嵯峨本活字本源氏物語について』湯川松次郎、1934年

川瀬一馬『嵯峨本圖考』一誠堂、1932年

堀永休編『嵯峨誌』嵯峨自治會、1932年

小林吉明謹編『舊嵯峨御所大覺寺門跡要録』大覺寺、1895年

## 【伏見関係】

### 2010年代

久世奈欧「近世～近代初頭における神功皇后伝承：山城国伏見御香宮神社・桂女を中心に」（『史林』98-5、2015年）

剣持亜里沙「伏見宮貞成親王と絵巻：日記に見る絵巻と貞成親王の周辺人物」（『国文目白』54、2015年）

松尾信裕「豊臣時代の伏見城下町と大坂城下町」（『大阪歴史博物館研究紀要』13、2015年）

京都平安文化財編『伏見城跡・桃陵遺跡』2014年

田村 航「貞成親王と和気茂也：伏見宮の連歌会から」（『芸能史研究』205、2014年）

佛教学部歴史学部編集『伏見区水垂・納所の環境と歴史・民俗』佛教学部歴史学部、2014年

石川道子「古文書講座 伏見宿における細川家中下宿旅籠代について」（『歴史研究』55-6、2013年）

小川剛生「伏見院の私家集蒐集とその伝来について」（『斯道文庫論集』48、2013年）

並松信久「明治期京都における伏見十六会の展開：町の再生と組織づくり」（『京都産業大学日本文化研究所紀要』19、2013年）

松蘭 斉「室町時代の女房について：伏見宮家を中心に」（『人間文化：愛知学院大学人間文化研究所紀要』28、2013年）

村尾政人「最新城郭研究 京都府「伏見城城下町」（『月刊考古学ジャーナル』645、2013年）

渡邊忠司「徳川政権と京都二條城警衛体制の確立」（『歴史学部論集』佛教学部、2013年）

大阪歴史学会企画委員会「伏見城跡の現状調査」（『ヒストリア』233、2012年）

加藤悠希「聚楽第・伏見城・豊国廟遺構説の萌芽」（『日本建築学会計画系論文集』77（675）、2012年）

京都教育大学教育資料館まなびの森ミュージアム『京都・伏見の戦争と師範学校：2012 秋季企画展』2012年

皇室制度調査室「伏見宮本『広義門院御産御記 後伏見天皇宸記』翻刻（下）付解題」（『書陵部紀要』64、2012年）

中澤伸弘「伏見殿の御血脈 男系皇胤とは何かとの考へ方」（『伝統と革新：オピニオン誌』9、2012年）

中村健史「伏見院の悲秋歌：『玉葉集』四六三番歌と『礼記』月令」（『京都大学國文學論叢』28、2012年）

林夏樹、小野芳朗「伏見市の京都市編入（京伏合併）過程における政治主導」（『土木史研究・講演集』32、2012年）

山本雅和「江戸時代の伏見城城下町」（『月刊考古学ジャーナル』623、2012年）

皇室制度調査室「伏見宮本『広義門院御産御記 後伏見天皇宸記』翻刻（上）」（『書陵部紀要』63、2011年）

伏見稲荷大社御鎮座千三百年史調査執筆委員会編『伏見稲荷大社御鎮座千三百年史』伏見稲荷大社、2011年

堀内明博ほか編『伏見の古絵図：伏見区誕生 80 周年記念事業』伏見城研究会、2011年

母利美和、藤田彩、金森智子「京都醍醐町八木家文書・伏見大坂町文書」（『史窓』68、2011年）

伊藤誠之「近世伏見の土地・人の構造とその支配 -- 伏見廻り村の視点を中心に」（『資料館紀要』38、2010年）

児玉義隆「講評 中村王洋「ダキニ天と稲荷信仰 -- 特に伏見稲荷との関係について（抄）」」（『密教学』46、2010年）

酒井多加志「港町を散策する（9）伏見 -- 京と大坂を結ぶ物流の拠点」（『地理』55（3）、2010年）

中井 均「伏見城と豊臣・徳川初期の城郭構造」（『ヒストリア』222、2010年）

中村王洋「ダキニ天と稲荷信仰 -- 特に伏見稲荷との関係について（抄）」（『密教学』46、2010年）

西近畿文化財調査研究所、文化財支援センター編集『伏見城跡・桃陵遺跡発掘調査報告書：公務員宿舎伏見住宅（仮称）整備事業』2010年

福島克彦「伏見城の機能とその破却について」（『ヒストリア』222、2010年）

丸川義広「伏見城の考古学的調査」（『ヒストリア』222、2010年）

森島康雄「伏見城城下町の考古学的調査」（『ヒストリア』222、2010年）

母利美和、有働春香、三村明依子「山城国伏原家文書・伏見同心田村家文書・草津宿助郷大路井村文書・田丸城古記・丹波国船井郡西田村小早川家文書」（『史窓』67、2010年）

## 第2部 京都班の報告

山田邦和「伏見城・城下町の研究史と陵墓問題」(『ヒストリア』222、2010年)

「山城国伏原家文書・伏見同心田村家文書・草津宿助郷大路井村文書・田丸城古記・丹波国船井郡西田村小早川家文書目録」  
(『史窓』67、2010年)

### 2000年代

大阪歴史学会企画委員会、仁木宏「佐紀陵山古墳と伏見城への立ち入り」(『ヒストリア』215、2009年)

田中仙堂「安土・桃山の茶(76) 伏見城の茶亭」(『茶道の研究』54(7)、2009年)

毛利憲一「東西南北 二〇〇八年度・陵墓立入り観察(佐紀陵山古墳・伏見城跡)の記録」(『新しい歴史学のために』  
275、2009年)

山田邦和、中井均「伏見城跡(桃山陵墓地)の立入調査」(『日本史研究』565、2009年)

岩橋清美「伏見稲荷社における社記・由緒記編纂と名所の創出」(『江戸文学』39、2008年)

榎本直樹「吉田家と伏見の「稲荷勧請」談義」(『西郊民俗』205、2008年)

奥野千晴他「稲荷山におけるお山詣りの空間シーケンス:稲荷山の信仰空間特性に関する研究」(『学術講演梗概集』  
E-1、建築計画I、各種建物・地域施設、設計方法、構法計画、人間工学、計画基礎』2008年)

金文京「天龍寺妙智院蔵「勸世文酒茶四問」について」(『アジア遊学』114、2008年)

鹿内浩胤「伏見宮家本『東宮御元服部類記』について」(今泉隆雄先生還暦記念論文集刊行会編『杜都古代史論叢:今泉  
隆雄先生還暦記念論文集』今野印刷、2008年)

田中泰信「土地利用の歴史的経緯から見る景観破壊のメカニズム:伏見区深草大岩地域の土地利用の変遷(修士論文要  
旨)」(『龍谷大学大学院経済研究』8、2008年)

仲尾 宏「朝鮮通信使と伏見城の聘礼」(『講座・人権ゆかりの地をたずねて』2008年度、2008年)

上田正昭「伏見稲荷大社と渡来の文化[含 質疑応答]」(『講座・人権ゆかりの地をたずねて』2007年度、2007年)

京都市埋蔵文化財研究所編集『伏見城跡』2007年

西山昭仁、小松原琢「近世都市の建設と災害対策に関する一考察--伏見の事例を中心に」(『歴史都市防災論文集』1、  
2007年)

星野猷二、三木善則著『淀城』伏見城研究会、2007年

石川道子「古文書を読む 肥後熊本藩伏見旅籠代につき書状」(『歴史研究』48(9)、2006年)

酒井茂幸「宮内庁書陵部蔵伏見宮旧蔵『三席御会次第 詩歌、管弦 御遊』--紹介と翻刻」(『研究と資料』55、2006年)

服部善彦『戊辰戦争・鳥羽伏見之戦跡をあるく』暁印書館、2006年

原山充志「京都・伏見城跡(第八号)(釈文の訂正と追加(9))」(『木簡研究』28、2006年)

原山充志「京都・伏見城跡(二〇〇五年出土の木簡)」(『木簡研究』28、2006年)

星野猷二、三木善則著『伏見城』2006年

松岡祐也「『言経卿記』に見る文禄5年伏見地震での震災対応--特に「和歌を押す」行為について」(『歴史地震』21、2006年)

森 正人「看聞日記の世界に身を置いた頃--『伏見宮文化圏の研究』とその後」(『日本歴史』692、2006年)

志賀節子「室町期伏見庄における侍衆をめぐって」(『ヒストリア』197、2005年)

信多純一「伏見御香宮祭禮圖屏風について」(『國華』111(5)、2005年)

瀬田勝哉「伏見即成院の中世:歴史と縁起」(『武蔵大学人文学会雑誌』36(3)、2005年)

仲尾 宏「朝鮮通信使の先がけ 松雲大師と徳川家康--伏見城と本法寺で復交と交流をはかる」(『講座・人権ゆかりの地  
をたずねて』2005年度、2005年)

井口富夫「伏見稲荷大社鳥居前町の調査結果概要(指定研究)(京都の伝統産業と東西本願寺門前町に関する総合的調査  
研究)」(『社会科学研究年報』34、2004年)

石川道子「古文書を読む 肥後藩の伏見本陣」(『歴史研究』46(5)、2004年)

菅澤庸子「秦氏と伏見稲荷大社[含 質疑応答]」(『講座・人権ゆかりの地をたずねて』2004年度、2004年)

天理大学附属図書館編『近世の文化と活字本:きりしたん版・伏見版・嵯峨本…』天理ギャラリー、2004年

時枝 務「伏見城跡出土瓦の諸問題」(『東京国立博物館研究誌』593、2004年)

早田一郎「近世の文化と活字本--きりしたん版・伏見版・嵯峨本…」展(『ビブリア』122、2004年)

- 小島道裕「書評 / 日本史研究会編『豊臣秀吉と京都 -- 聚楽第・御土居と伏見城』」(『歴史評論』641、2003年)
- 聖母女学院短期大学伏見学研究会編『伏見の歴史と文化』清文堂出版、2003年
- 西野隆次「南部信直と「取次」前田利家 -- 伏見作事板の賦課をめぐる」(『地方史研究』53(5)、2003年)
- 星宮智光「豊臣期伏見城々々下町の近世的特徴」(『聖母女学院短期大学研究紀要』32、2003年)
- 村田路人「元禄期における伏見・堺両奉行の一時廃止と幕府の遠国奉行政策」(『大阪大学大学院文学研究科紀要』43、2003年)
- 京都市埋蔵文化財研究所編集『伏見城跡』京都市埋蔵文化財研究所、2002年
- 横井 清『室町時代の一皇族の生涯：『看聞日記』の世界』講談社、2002年
- 日本史研究会編『豊臣秀吉と京都：聚楽第・御土居と伏見城』文理閣、2001年
- 植松清志、中嶋節子、谷直樹「高知藩屋敷の建築構成について -- 大坂・京都・伏見屋敷を中心に」(『建築史学』35、2000年)
- 白敷 毅「伏見 -- その地名の起源と歴史」(『黄檗文華』120、2000年)
- 瀬田勝哉「伏見古図」の呪縛」(『武蔵大学人文学会雑誌』31(3)、2000年)
- 三俣俊二「伏見のキリシタン史蹟」(『聖母女学院短期大学研究紀要』29、2000年)
- 研究代表者森正人『伏見宮文化圏の研究：学芸の享受と創造の場として』(科学研究費補助金(基盤研究C)研究成果報告書、平成10-11年度)熊本大学、2000年

#### 1990年代

- 岩田 貢「地域の何を見るか(6) 伏見 歴史の町か、生活の町か」(『地理』44(3)、1999年)
- 斎藤徹也「伏見宮本『文机談』成立論」(『東洋大学大学院紀要』36、1999年)
- 白原由起子「伏見稲荷曼陀羅」考 -- 個人本「〔ダ〕 枳尼天曼荼羅」に対する異見」(『東京国立博物館研究誌』560、1999年)
- 住吉朋彦「資料紹介 伏見宮旧蔵『雑抄』卷十四」(『書陵部紀要』51、1999年)
- 聖母女学院短期大学伏見学研究会『伏見学ことはじめ』思文閣出版、1999年
- 高井 昭「伏見稲荷大社の上社について」(『学術講演梗概集・F-2、建築歴史・意匠』1998年)
- 細井歌寿男「<資料紹介> 伏見宮旧蔵楽書『打物譜』の修補記録と復元紙背文書」(『書陵部紀要』50、1998年)
- 奥田 尚「元禄期の江戸、京都、奈良、伏見、大津の具体相：西鶴の町人物三部作の再構成による」(『追手門学院大学文学部紀要』33、1997年)
- 白峰 旬「文禄3年の伏見城普請について」(『年報中世史研究』22、1997年)
- 神保忠宏「資料紹介 東家に残る3種類の城絵図 -- 安土城 聚楽城 伏見城」(『紀要』滋賀県安土城考古博物館、1997年)
- 三木晴男『小西行長と沈惟敬：文禄の役、伏見地震、そして慶長の役』日本図書刊行会、近代文芸社、1997年
- 宗政五十緒「近世後期の京五条橋から伏見豊後橋まで：名所図会に見る伏見街道」(『龍谷大学論集』450、1997年)
- 寒川 旭「兵庫県南部地震と慶長伏見地震」(『古代学研究』135、1996年)
- 小田原市史編さん室『京都市伏見区稲葉神社蔵「稲葉家永代日記」内容索引』1995年
- 鈴木賢次「仮皇居になった伏見宮貞成親王御所の寝殿(仮皇居時代の南殿)の上段と平面」(『本建築学会計画系論文集』474、1995年)
- 岡田光代「伏見唐物定間屋契約書」(『歴史研究』31、1993年)
- 三浦正幸「備後福山城本丸御殿の伏見城移建殿舎」(『学術講演梗概集・F、都市計画、建築経済・住宅問題、建築歴史・意匠』1993年)
- 位藤邦生『伏見宮貞成の文学』清文堂、1991年
- 京都府教育委員会『円光寺の文化財：伏見版木製活字など』円光寺、1991年
- 京都府教育委員会編『円光寺所蔵伏見版木活字関係歴史資料調査報告書』1991年
- 比田井南谷編『西域出土の木簡と残紙』天来書院、1991年
- 平林盛得「伏見宮旧蔵部類記と西園寺公衡」(『書陵部紀要』43、1991年)

#### 1980年代

- 伏見城研究会『伏見城跡発掘調査報告：伏見北堀公園整備工事に伴う事前発掘調査』1989年
- 村上忠喜「伏見における「町裏」の開発と都市化の様相：都市民俗試論として」(『鷹陵史学』14、1988年)

## 第2部 京都班の報告

- 三木善則『伏見城跡発掘余話』日本古城友の会、1987年  
中部よし子「徳川幕府初期の伏見・大坂の職制」（『日本歴史』460、1986年）  
中川和明「伏見作事板の廻漕と軍役（2）」（『弘前大学國史研究』79、1985年）  
中川和明「伏見作事板の廻漕と軍役（1）」（『弘前大学國史研究』78、1985年）  
宮内庁書陵部『「後崇光院と伏見宮本」展示目録』1984年  
伏見町役場編纂『京都府伏見町誌』臨川書店、1984年  
中本宏明『伏見町史年表』1984年  
永井邦男「二尊院古図について」（『学術講演梗概集・計画系』58（建築歴史・建築意匠）、1983年）  
小池一行「伏見宮本「御産部類記」にみる公季公孫流 - 歌人研究の一資料として」（『語文』54、1982年）  
中野正明「二尊院所蔵「七箇条制誡」署名考」（『大正大学大学院研究論集』6、1982年）  
市野千鶴子「伏見御所周辺的生活文化 - 看聞日記にみる」（『書陵部紀要』33、1981年）  
菊池 武「勸進と本願及び聖 - 特に伏見稲荷大社本願所について」（『印度学仏教学研究』29（2）、1981年）  
伏見町史刊行委員会『伏見町史』1981年  
倉沢行洋「伏見城史とその周辺（2）：桃山時代精神史・芸術史の基礎として」（『近代』55、1980年）

### 1970年代

- 位藤邦生「伏見宮連歌会と源氏寄合」（『国文学攷』81、1979年）  
木本好信「書陵部所蔵伏見宮本「母后代々御賀記」について（資料）」（『皇学館論叢』12（3）、1979年）  
倉沢行洋「伏見城とその周辺（1）：桃山時代精神史・芸術史の基礎として」（『近代』54、1979年）  
横井 清「看聞御記：「王者」と「衆庶」のはざまにて」そしえて、1979年  
星野猷二「伏見城」（『月刊文化財』179、1978年）  
伏見稲荷大社講務本庁編『稲荷講志』1978年  
小川幸三「後崇光院と伏見宮連歌会」（金子金治郎博士古稀記念論集編集委員会編『連歌と中世文芸』角川書店、1977年）  
杉森美代子「翻刻元伏見宮家御蔵梁塵秘抄口傳集第十」（『帝京大学文学部紀要 国語国文学』9、1977年）  
立川 洋「伏見御香宮祭礼における芸能興行の諸相」（『芸能史研究』56、1977年）  
伏見稲荷大社講務本庁編『伏見城跡発掘調査概報（水野左近東町）：大名屋敷推定地区』1977年  
熊倉功夫「近代の茶の湯-4- 伏見町界限」（『日本美術工芸』448、1976年）  
倉沢行洋「伏見城の数奇と数奇屋」（『論集：神戸大学教養部紀要』17、1976年）  
瀬川芳則編著『伏見城武家屋敷跡発掘調査報告書』伏見城跡発掘調査団、1976年  
鈴木重治『伏見城豊後橋北詰の調査』伏見城研究会、1975年  
位藤邦生「無力次第也 - 「看聞日記」に見る伏見宮貞成の生きかた」（『国文学攷』62、1973年）  
位藤邦生「伏見宮貞成対足利義教 - 「看聞日記」への文学的アプローチ」（『広島大学文学部紀要』32（1）、1973年）  
京都府紀伊郡役所編、伏見町役場編『京都府紀伊郡誌、京都府伏見町誌』臨川書店、1972年  
西田長男「空海伏見稲荷大社の樹を伐る」（『日本歴史』287、1972年）  
西田長男「伏見稲荷大社と弘法大師空海と - 「澄心寺縁起」を中心として」（『神道宗教』65・66、1972年）  
むじゃこうじみのる「伏見宮旧蔵本「宝蔵絵詞」について」（『和光大学人文学部紀要』7・8・9、1972年）  
内藤昌、他「伏見城（I）武家地の建築：近世都市図屏風の建築的研究：洛中洛外図・その3」（『日本建築学会論文報告集』181、1971年）  
内藤昌、他「伏見城（II）：武家地の建築：近世都市図屏風の建築的研究：洛中洛外図・その4」（『日本建築学会論文報告集』182、1971年）  
菊地勇次郎「宮内庁書陵部編「伏見宮家九条家旧蔵 諸寺縁起集」（『史学雑誌』79（8）、1970年）  
相馬万里子「文机談成立攷 - 伏見宮本を中心として」（『書陵部紀要』22、1970年）  
高木嘉吉「文化財の保存と展示：伏見桃山城と吉野の史蹟を訪ねて」（『佐伯史談』65、1970年）  
高橋伸幸「大東急記念文庫蔵通憲入道蔵書目録について - 下 - 伏見宮家旧蔵本との比較〔含伏見宮家旧蔵本全文翻刻〕」（『かがみ』14、1970年）

平林盛得「慈覚大師御縁起〔書陵部蔵伏見宮家本と大倉精神文化研究所蔵三千院本との対校含翻刻〕（資料紹介）」（『書陵部紀要』22、1970年）

藤岡謙二郎「ふるい城下町とその変貌-2- 京都の伏見（都市域の地理）」（『地理』15（2）、1970年）

#### 1960年代

石塚一雄「後崇光院宸筆宝蔵絵詞〔書陵部蔵（伏見宮家本）文安年間写 含翻刻〕（資料紹介）」（『書陵部紀要』21、1969年）

板倉晴武「宮内庁書陵部の新収本について -- 伏見宮内蔵本を中心として」（『びぶろず』20（3）、1969年）

野田只夫「伏見城下町の一考察：築城前の伏見と城下町建設」（『京都教育大學紀要・A、人文・社会』35、1969年）

下房俊一「伏見宮貞成」（『国語国文』37（11）、1968年）

伏見稲荷大社編『伏見稲荷大社略記』伏見稲荷大社社務所、1968年

三田全信「嵯峨二尊院の法然上人の納骨塔について」（『人文学論集』2、1968年）

木内一夫「法楽芸能と娯楽芸能 -- 社・寺中心から武家中心へ〔伏見御香宮、醍醐清竜宮、猿楽人〕」（『國學院雑誌』68（4）、1967年）

鈴木 亘「伏見宮御所にみる「場」の考察（建築史・建築意匠）」（『日本建築学会論文報告集・号外、学術講演要旨集』42、1967年）

内藤 昌「まぼろしの伏見城・桃山建築おぼえがき -- 真贋-41-」（『芸術新潮』18（5）、1967年）

泉雄照正「伏見船考」（『地方史研究』16（5）、1966年）

黒川正宏「伏見荘の地侍たちとその生活」（『歴史教育』13（7）、1965年）

「伏見宮旧蔵図書仮目録」（『書陵部紀要』15、1964年）

『伏見桃山城落成慶祝大展開覧目録』伏見桃山城、1964年

中島 至『伏見城とその城下町の変遷』若林春和堂、1963年

松本寧至「『とはずがたり』匿名人物考：伏見の人について」（『國文學踏査』7、1963年）

伏見稲荷大社『伏見稲荷大社年表』伏見稲荷大社御鎮座一千二百五十年大祭奉祝記念奉賛会、1962年

伏見稲荷大社『稲荷社家系図』伏見稲荷大社御鎮座一千二百五十年大祭奉祝記念奉賛会、1961年

武部敏夫「世襲親王家の継統について -- 伏見宮貞行・邦頼両親王の場合」（『書陵部紀要』12、1960年）

#### 1950年代

井上洋一郎「近世酒造業の経済構造 -- 伏見酒造業の場合」（『政経論叢』8（4）、1959年）

宮内庁書陵部編『伏見宮および九條家舊蔵縁起類展示目録』1958年

川上 貢「伏見殿について」（『日本建築学会論文報告集』56、1957年）

桑田忠親「伏見城と桃山文化」（『國學院雑誌』58（3）、1957年）

神島修一「伏見稲荷大社」（『経済評論』複5（1）、1956年）

川上 貢「伏見城本丸御対面所の間取について」（『日本建築學會研究報告』34、1955年）

川上 貢「伏見城本丸殿舎御対面所間取推定の資料」（『日本建築學會研究報告』34、1955年）

川上 貢「元和年間の伏見城本丸殿舎について」（『日本建築學會研究報告』33-2、1955年）

川上 貢「十五世紀初の仙洞御所と伏見殿について（その1）」（『日本建築學會研究報告』30、1955年）

川上貢「十五世紀初の仙洞御所と伏見殿について（その2）」（『日本建築學會研究報告』30、1955年）

川上 貢「十五世紀初の仙洞御所と伏見殿について（その3）」（『日本建築學會研究報告』30、1955年）

伏見稲荷大社『稲荷大社略記』1955年

加藤次郎『伏見桃山の文化史』1953年

伏見稲荷大社編纂『稲荷大社由緒記集成』伏見稲荷大社社務所、1953-1988年

橋本真雄「平教の伏見布教初期の研究」（『金光教学』6、1950年）

#### 1940年代

城戸 久「二條城天守考（伏見城に関する研究 其の6）」（『建築學會論文集』29、1943年）

城戸 久「山城淀城天守考 - 伏見城に関する研究その4-」（『建築學會論文集』26、1942年）

城戸 久「秀吉歿後に於ける伏見城改修破却に就て」（『建築學會論文集』25、1942年）

## 第2部 京都班の報告

城戸 久「秀吉に依る伏見城營築に就て（伏見城に関する研究）（その2）」（『建築學會論文集』25、1942年）

### 1930年代以前

京伏合併記念會『京伏合併記念伏見市誌』1935年

田中教忠『五條橋考：附四條橋、俊成卿墓及伏見歴史考』1932年

京都府紀伊郡伏見町役場編『伏見民政誌』京都府紀伊郡伏見町役場、1926年

永田康治『伏見史稿』伏見戸主會、1926年

吉田初三郎圖繪執筆、西村秀孝著『伏見稻荷：全境内名所圖繪』愛信會宣傳部、1925年

伏見町編纂『伏見誌』伏見町、1923年

玉田玉秀齋講演、山田唯夫速記『伏見桃山大地震：加藤誠忠』立川文明堂、1915年

西野伊之助『桃山御陵參拜案内記一名伏見名所圖繪』西野献弘堂、1915年

河合虎橘『伏見桃山歴史地圖』大文堂、1914年

『豊臣秀吉伏水桃山城古圖』和樂路屋書店、1913年

大日本史蹟研究会『伏見桃山』誠文館、1912年

参考資料 1 中世寺社境内図一覧（京都・大阪・奈良）

史料名	品質形状・技法	法量 (cm)	時代	和暦 (西暦)	所蔵	出展	頁	番号
出雲神社々領勝示絵図	紙本着色	58.4 × 82.0	鎌倉時代	(天福年間)	京都 出雲大神宮	『古絵図』	88	57
						『国宝 大神社展』	86	102
石清水八幡宮曼荼羅	絹本着色	124.2 × 73.8	室町時代	—	東京 根津美術館	『古絵図』	77	49
						『国宝 大神社展』	81	97
石清水八幡宮曼荼羅	絹本着色	88.7 × 27.9	鎌倉時代	—	京都 栗棘庵	『古絵図』	78	50
						『国宝 大神社展』	80	96
石清水八幡宮曼荼羅 (部分)	絹本着色	137.4 × 63.7	—	(文明 11 以前)	福岡 倉石文夫氏	『古絵図』	79	51
石清水八幡宮還座縁起絵	絹本着色	115.1 × 40.1	鎌倉時代	—	愛知 徳川美術館	『社寺絵図とその文書』	15	6
応永鈞命絵図	紙本着色	291.2 × 241.5	室町時代	応永 33 (1426)	京都 天龍寺	『古絵図』	95	61
						『日本荘園絵図集成』上	130	82
						『社寺絵図とその文書』	27	10
						『日本荘園絵図聚影』2 近畿 1	62	21
						『中世荘園絵図大成』2	14	14
笠置寺曼荼羅	絹本着色	75.5 × 54.8	鎌倉時代	—	奈良 大和文華館	『古絵図』	67	41
						『南山城の古寺巡礼』	66	51
笠置寺縁起絵巻	紙本着色	紙高 31.2	室町時代	—	京都 笠置寺	『南山城の古寺巡礼』	74	59
上賀茂社境内絵図	紙本着色	222.6 × 241.8	室町時代	—	京都 賀茂別雷神社	『古絵図』	20	3
						『社寺絵図とその文書』	6	1
						『中世荘園絵図大成』2	17	17
祇園社境内絵図	紙本着色	167.0 × 107.5	鎌倉時代	元徳 3 (1331)	京都 八坂神社	『国宝 大神社展』	88	104
						『古絵図』	17	1
						『社寺絵図とその文書』	12	4
						『中世荘園絵図大成』2	15	15
祇園社大政所図屏風	紙本着色	170.3 × 146.0	室町時代後期	—	京都 大和 実氏	『国宝 大神社展』	87	103
						『古絵図』	47	25
						『京を描く』	28	10
教王護国寺伽藍指図	紙本墨画	180.5 × 155.7	室町時代	—	京都国立博物館	『社寺絵図とその文書』	26	9
京中焼亡図	紙本墨画	29.8 × 38.0	鎌倉時代	—	『清辨眼抄』	『日本荘園絵図集成』下	85	23
京都応仁前図	紙本着色	77.0 × 107.0	江戸時代中期	—	宮内庁書陵部	『日本荘園絵図集成』下	33	参4
清水寺参詣曼荼羅	紙本着色	168.5 × 176.8	室町時代後期	—	滋賀 中島高名氏	『古絵図』	46	24
						『京を描く』	17	6
清水寺参詣曼荼羅	紙本着色	159.5 × 172.8	室町時代後期	—	京都 清水寺	『中世荘園絵図大成』2	24	24
北野宮曼荼羅図	絹本着色	125.8 × 73.3	室町時代	—	京都 北野天満宮	『京を描く』	16	5
高山寺絵図	紙本着色	164.6 × 164.7	鎌倉時代	寛喜 2 (1230)	京都 神護寺	『古絵図』	86	55
						『古絵図の世界』	11	7
						『日本荘園絵図聚影』2 近畿 1	17	14
						『中世荘園絵図大成』1	7	7
						『中世荘園絵図大成』3	2	2
嵯峨龟山殿近辺屋敷地指図	紙本墨書	197.2 × 214.5	南北朝時代	—	京都 天龍寺	『日本荘園絵図聚影』2 近畿 1	49	19
嵯峨舍那院御領絵図	紙本着色	154.2 × 155.4	鎌倉時代	建永 2 (1207)	京都 天龍寺	『古絵図』	94	60
						『古絵図の世界』	9	5
						『日本荘園絵図聚影』2 近畿 1	42	18
						『日本荘園絵図集成』上	60	38
						『中世荘園絵図大成』1	9	9
下鴨神社境内絵図	紙本着色	214.0 × 193.5	室町時代	—	京都国立博物館	『中世荘園絵図大成』3	10	10
						『古絵図』	18	2
						『社寺絵図とその文書』	8	2
主殿寮御領小野山と神護寺領界相論図	紙本墨画	104.4 × 61.9	鎌倉時代	寛喜 2 (1230)	京都 神護寺	『中世荘園絵図大成』2	18	18
						『古絵図』	95	62
						『古絵図の世界』	13	8
						『日本荘園絵図集成』上	63	40
						『日本荘園絵図聚影』2 近畿 1	15	13
神護寺伽藍図	紙本着色	172.8 × 177.6	桃山時代	—	京都 神護寺	『中世荘園絵図大成』3	9	9
						『社寺絵図とその文書』	30	12
						『古絵図』	84	54
神護寺領高雄山絵図	紙本着色	199.6 × 160.7	鎌倉時代	寛喜 2 (1230)	京都 神護寺	『日本荘園絵図集成』上	62	39
						『古絵図の世界』	10	6
						『日本荘園絵図聚影』2 近畿 1	12	12
						『中世荘園絵図大成』1	6	6
						『中世荘園絵図大成』3	1	1
神泉苑請雨経法道場図	紙本墨書	139.2 × 86.4	鎌倉時代	寛元 2 (1244)	奈良国立博物館	『古絵図』	110	77
						『日本荘園絵図集成』下	123	40
						『社寺絵図とその文書』	24	7
						『醍醐寺のすべて』	117	90
神泉苑祈雨道場絵図	紙本着色	未詳	鎌倉時代	文永 10 (1273)	藤井孝昭氏	『日本荘園絵図集成』下	126	40
神泉苑祈雨道場絵図	紙本着色	未詳	室町時代	応永 27 (1420)	徳力氏	『日本荘園絵図集成』下	127	40
神泉苑道場指図	紙本墨画	65.0 × 55.2	鎌倉時代	—	—	『社寺絵図とその文書』	25	8
等持寺境内絵図	紙本淡彩	148.0 × 168.0	室町時代	—	京都 等持院	『古絵図』	35	13
東寺領洛中散在当知行敷地指図	紙本着色	45.0 × 28.0	南北朝時代	永徳 2 (1382)	京都 教王護国寺	『中世荘園絵図大成』2	25	25
						『日本荘園絵図集成』上	121	76
東福寺伽藍図	紙本墨画 淡彩	83.0 × 152.0	室町時代	—	京都 東福寺	『社寺絵図とその文書』	28	11

第2部 京都班の報告

	史料名	品質形状・技法	法量 (cm)	時代	和暦 (西暦)	所蔵	出展	頁	番号
京都	成相寺参詣曼荼羅	紙本着色	150.3 × 126.8	室町時代	—	京都 成相寺	『古絵図』	54	29
	東山泉涌寺図 (古伽藍図)	紙本着色	209.0 × 133.5	南北朝時代	—	京都 泉涌寺	『京を描く』	14	4
	普広院旧基封境絵図	紙本墨書	157.4 × 130.0	室町時代	永正7 (1510)	京都 相国寺	『古絵図』	108	75
	平安京図	紙本着色	紙高 33.3	鎌倉時代	—	東京国立博物館	『日本荘園絵図集成』上	102	65
	法性寺御願山指図	紙本着色	56.8 × 113.8	鎌倉時代	正安元 (1299)	京都 田中勘兵衛氏	『日本荘園絵図集成』上	80	52
	宝荘院敷地用水指図	紙本着色	16.3 × 40.7	南北朝時代	延文元 (1356)	福井 小浜市立図書館	『日本荘園絵図集成』上	120	75
	松尾大社及近郷絵図	紙本着色	94.1 × 160.3	室町時代	—	京都 松尾大社	『古絵図』	22	4
							『日本荘園絵図集成』下	149	57
							『社寺絵図とその文書』	10	3
							『日本荘園絵図聚影』2 近畿 1	69	22
	『中世荘園絵図大成』2		19						
	御室戸醍醐山上山廻指図	紙本着色	53.6 × 93.2	室町時代	寛正5 (1464)	京都 醍醐寺	『日本荘園絵図聚影』2 近畿 1	93	41
	妙見寺地子法住寺押坊図	紙本墨画	未詳	室町時代	応永11 (1404)	『廿一口年預記』	『日本荘園絵図集成』下	121	38
	八坂法観寺塔受茶羅	紙本着色	147.0 × 169.0	室町時代	—	京都 法観寺	『古絵図』	48	26
臨川寺御願大井郷界畔絵図	紙本着色	211.1 × 140.8	南北朝時代	貞和3 (1347)	京都 天龍寺	『日本荘園絵図聚影』2 近畿 1	55	20	
六道珍皇寺参詣曼荼羅図	紙本着色	206.8 × 176.3	室町時代	—	京都 六道珍皇寺	『京を描く』	18	7	
大阪・奈良	生駒宮曼荼羅	絹本着色	105.3 × 41.9	鎌倉時代	—	奈良国立博物館	『古絵図』	70	43
	『社寺の風景』	13	4						
	柿本宮曼荼羅	紙本着色	132.9 × 57.8	室町時代	—	奈良 大和文華館	『古絵図』	68	42
	額安寺伽藍並糸里図	麻布着色	113.1 × 69.6	奈良時代	—	国立歴史民俗博物館	『古絵図』	82	53
							『日本荘園絵図集成』上	31	25
	『日本荘園絵図聚影』3 近畿 2	74	27						
	『中世荘園絵図大成』2		3						
	春日社寺曼荼羅	絹本着色	117.0 × 55.8	室町時代	—	奈良 興福寺	『古絵図』	75	47
	春日宮曼荼羅	絹本着色	65.1 × 28.4	鎌倉時代	—	東京 根津美術館	『古絵図』	72	44
	『国宝 大神社展』	74	90						
	春日宮曼荼羅	絹本着色	108.5 × 41.5	鎌倉時代	正安2 (1300)	大阪 湯木美術館	『古絵図』	73	45
	春日宮曼荼羅	絹本着色	183.0 × 106.1	室町時代	—	奈良 南市町春日講	『古絵図』	74	46
	春日宮曼荼羅	絹本着色	68.6 × 29.7	鎌倉時代	—	九州国立博物館	『国宝 大神社展』	75	91
	春日宮曼荼羅	絹本着色	110.4 × 40.9	鎌倉時代	—	個人蔵	『国宝 大神社展』	76	92
	春日宮曼荼羅	絹本着色	107.1 × 42.3	南北朝時代	—	京都 西寿寺	『南山城の古寺巡礼』	59	46
	春日宮曼荼羅	絹本着色	78.8 × 35.8	鎌倉時代	—	奈良国立博物館	『社寺の風景』	10	1
	春日宮曼荼羅	絹本着色	97.8 × 40.0	鎌倉時代	—	滋賀 石山寺	『社寺の風景』	11	2
	春日宮曼荼羅	絹本着色	65.2 × 26.7	鎌倉時代	—	愛知 徳川美術館	『社寺の風景』	12	3
	虚空蔵寺領絵図	紙本着色	55.5 × 86.5	鎌倉時代	—	奈良 東大寺図書館	『古絵図』	88	56
							『日本荘園絵図集成』上	56	36
							『日本荘園絵図聚影』3 近畿 2	72	26
							『日本荘園絵図大成』1	33	26
							『日本荘園絵図集成』上	72	47
『日本荘園絵図集成』上							73	48	
『日本荘園絵図集成』上							75	49	
『日本荘園絵図集成』上							84	56	
『日本荘園絵図集成』上							86	57	
『日本荘園絵図聚影』3 近畿 2							40	12	
『中世荘園絵図大成』1							12		
『中世荘園絵図大成』3								11	
『日本荘園絵図聚影』3 近畿 2							45	13	
『中世荘園絵図大成』1								13	
『日本荘園絵図聚影』3 近畿 2							46	14	
『中世荘園絵図大成』1								14	
施福寺参詣曼荼羅	絹本着色	149.5 × 151.5	室町時代	—	大阪 施福寺	『古絵図』	55	30	
東大寺曼荼羅	絹本着色	152.5 × 82.6	室町時代	—	奈良 東大寺	『古絵図』	76	48	
東大寺山堺四至図 (東大寺境内図)	麻布着色	299.0 × 222.0	奈良時代	天平勝宝8 (756)	奈良 正倉院	『日本荘園絵図集成』上	8	5	
						『日本荘園絵図集成』下	45	2	
						『日本荘園絵図聚影』3 近畿 2	1	1	
						『中世荘園絵図大成』2		12	
大和国中古城図	紙本着色	94.7 × 88.5	室町時代	天正元 (1573) ?	未詳	『日本荘園絵図集成』下	19	104	

※法量は発行年の新しい出典元のものを採用

- 京都国立博物館編『古絵図』(特別展覧会図録)、1968年  
 西園虎之助編『日本荘園絵図集成』上下、東京堂出版、1976年  
 京都国立博物館編『古絵図の世界』(特別陳列)、1984年  
 京都国立博物館編『社寺絵図とその文書』(特別陳列)、1985年  
 東京大学史料編纂所編『日本荘園絵図聚影』近畿2、東京大学出版会、1988年  
 東京大学史料編纂所編『日本荘園絵図聚影』近畿1、東京大学出版会、1992年  
 小山靖憲、下坂守、吉田敏弘編著『中世荘園絵図大成』河出書房新社、1997年  
 東京国立博物館、九州国立博物館編『国宝 大神社展』NHKプロモーション、2013年  
 京都国立博物館、朝日新聞社編『南山城の古寺巡礼』(特別展覧会)、2014年  
 奈良国立博物館編『国宝醍醐寺のすべて』奈良国立博物館、2014年  
 大和文華館編『社寺の風景 宮曼荼羅から祭礼図へ』(特別企画展)、2014年  
 京都文化博物館編『京を描く 洛中洛外図の時代』京都府京都文化博物館、2015年

【出典】